臺灣新民 夕刊
十月十六日
夕刊定價一部一錢
發行所 臺北市榮町三丁目廿四番地 臺灣新民報社
臺北市榮町七ノ五 臺北支局
臺中市榮町二ノ七〇 臺中支局
臺南市新町貳ノ三〇七 臺南支局
花蓮港廳花蓮港街 花蓮港支局
大阪二六ビルディング 大阪支局
東京日比谷三ノ一 東京支局
佐々木 寧
（第二種郵便物認可）（昭和十二年十月十七日）

○○○數百名が 國防獻金の申出

皇軍の活躍を眼前に見て 給料の受領を謝絶

【臺北電話十五日發同盟】○○部隊所屬の○○○は○○○數百名に達し○○○

支那船は片影もなく 大半は英國船舶

秋雨の中に……不眠の監視

【〇〇艦上にて十五日發岡山本社特派員】乘艦以來二週間、監視哨戒勤務は不眠不休で續けられて居るが、支那船は一隻も認めない、第三國船の往來も極めて閑散、海上封鎖による支那貿易激減の爲めだらう、香港出入港船舶は、一日三、四隻位で、その大半は英船で、此處を中心とする英國海上商權の根強さに驚いた、指定外の〇〇地點に、怪船ありとの我が偵察機の報告に、勇躍全速力で追跡したが是も支那船ではなく一同ガッカリした、今朝未明より秋雨降りしきり咫尺を辨せず、海上に艦は薄明さへも洩さず、燈火管制をして巨體を横へて居た處突如先の商船が右舷三千米近く驀進し來るのを認め、直ちに探照燈信號で注意を促し、漸〳〵千米附近で停船させ衝突を免かれた

潮の勢ひ・順德に進入

【天津十六日發同盟】十六日午前九時三十分軍司令部發表、京漢線に沿ふ地區を南下中の我が部隊は昨十五日午後二時順德に進入せり

【天津十六日發同盟】京漢線に沿ひ南下元氏の大飛機に敵を急襲し更に潮の如く南進中の我が部隊に南方に逃遁を續けて十五日午後三時頃石家莊附近の敵の退路を遮斷し逆に之に進擊せしめた

【原本部十五日發同盟】十五日午後五時頃九龍發の敵機が突如原平上空に飛來したが我が地上部隊は猛烈なる射撃を加へ一機を作戰的に撃墜し殘る二機は北方に敗走した

敵機四機を撃墜

忻縣で壯烈な空中戰

【原本部十五日發同盟】山西の要衝忻縣に對し十五日午後大空襲を敢行すべく北方約五粁の上空を北進中の二機編隊の敵機を發見するや我が〇〇飛行隊は直ちに之に進入した、同部隊は勇敢なる敵を追ひ十數回に亘る交戰の末遂に之を撃墜し殘る二機は戰意なく北方に逃走せしめた

【原本部十五日發同盟】十五日午後五時頃九龍發の敵機が突如原平上空に飛來したが我が地上部隊は猛烈なる射撃を加へ一機を作戰的に撃墜し殘る二機は北方に敗走した

北支荒鷲部隊の爆撃

十五日間に四十九ヶ所

【〇〇十五日發同盟】北支方面に於ける我が荒鷲部隊は地上部隊の戰況と相俟つて北支戰局に決定的打撃を與へてゐるが十月一日より十五日までの間北支內主要敵飛行場の戰況は左の四十九ヶ所に及んでゐる

京漢線　石家莊、元氏、臨城、高邑、柏鄉、邢臺、內邱、唐山、順德、趙縣、饒陽、深縣、沙河

津浦線　泊頭鎭、東光鎭、連鎭、桑園、滄縣、馬廠、平原、德縣、張莊、船家口、武城、大名、臨清、油房鎭、鄧家莊、陳家務、沙河橋、山河橋、大城、白洋橋、小範鎭、衡水、武强、深縣、大楊村、東明、辛集、晉縣、南宮、北宮、辛橋、旧城

中間地區　故城、船家口、武城、大名、臨清、油房鎭、鄧家莊、陳家務、沙河橋、山河橋、大城、白洋橋、小範鎭、衡水、武强、深縣、大楊村、東明、辛集、晉縣、南宮、北宮、辛橋、旧城

催し物は止めて 嚴かな招魂祭

二十三日に擧式

【原本部十五日發同盟】十五日午後五時頃九龍發の敵機が突如原平上空に飛來したが我が地上部隊は猛烈なる射撃を加へ一機を作戰的に撃墜し殘る二機は北方に敗走した

【〇〇十五日發同盟】北支方面に於ける我が荒鷲部隊は地上部隊の戰況と相俟つて北支戰局に決定的打撃を與へてゐるが十月一日より十五日までの間北支內主要敵飛行場の戰況は左の四十九ヶ所に及んでゐる

京漢線　石家莊、元氏、臨城、高邑、柏鄉、邢臺、內邱、唐山、順德、趙縣、饒陽、深縣、沙河

津浦線　泊頭鎭、東光鎭、連鎭、桑園、滄縣、馬廠、平原、德縣、張莊、船家口、武城、大名、臨清、油房鎭、鄧家莊、陳家務、沙河橋、山河橋、大城、白洋橋、小範鎭、衡水、武强、深縣、大楊村、東明、辛集、晉縣、南宮、北宮、辛橋、旧城

中間地區　故城、船家口、武

敵陣深く進入し 堅壘を燒討ち

決死隊の愛國女塾爆破の手記

【福岡本社特電直發】去る九月十日拂曉の八路軍主力團による敵陣をくぐつて强靭な敵の本拠と籠城部隊に迫り火を放つてマンを擧げた決死隊の武勇談は既に傳へた通りであるが、この殊勲決死隊の指揮者○○營營組の長崎榮南、岩永勇市村松兩曹長が同郷の親友に送つた書信は當時の戰況を目に見る如く活寫してゐる、原文左の如くである

（前文略）愛國女塾は敵の突貫陣地で敵の大部隊が驅逐する據點であつた、その第一回は八月二十二日であつた、その第一回は八月二十二日でこの日我軍は夜襲一番乘りで殆ど何時間々々射つたが夜に入つて何時も猛烈に射つ敵が一發も射たないのだ、敵は壕を燒はれ逃げ去つたと思ひ込んで大村部隊は果敢に敵陣に突入十五日午前二時突入の命令に基き同地を占領した

蒙古軍も終遠入城

【綏遠十五日發同盟特電】綏西軍先遣部隊は日本軍の後を追ひ十五日楡林米糧庫に入城、目覺ましき共同作戰の戰勝を祝し合つた

令吉塞を占領

大村部隊、敵を殲滅

【張垣十五日發同盟】十四日張垣を占領した大村部隊は更に息つく間もなく同地西方三粁の令吉塞の敵一個聯に對して猛攻なる敵を殲滅すべく前進北方約五粁の上を出でゝ二個聯隊の敵を發見するや我が〇〇飛行隊は直ちに之に進入した、同部隊は勇敢なる敵を追ひ十數回に亘る交戰の末遂に之を撃墜し殘る二機は戰意なく北方に逃走せしめた

【原本部十五日發同盟】十五日午後五時頃九龍發の敵機が突如原平上空に飛來したが我が地上部隊は猛烈なる射撃を加へ一機を作戰的に撃墜し殘る二機は北方に敗走した

高砂丸入港

【基隆電話】南船舶協會高砂丸は十六日午前十一時頃を期して基隆に入港したが知名の士は政友會代議士小林躋造、前總督府民政長官賀來佐賀太郎、戰死陸軍中將佐久間亮次郎、上海事變當時上海陸戰隊參謀長大田實、海軍大佐藤田勇、昭和製鋼所長森矗昶、前日本窒素肥料會長の月

學徒鳥人北支へ

名譽の若鷹五名が選ばれて

後方連絡の重大任務につく部

軍顧を提出して居た當局では既に大村部隊の編成中の五名を北支の空に派遣する事となつたが、選ばれた名譽の若鷹は愛國の塾を生んだ十八日後東京を出發、

東大　杉山　好彥（二）
早大　金井　省一（同）
同　明大　鶴谷　省（同）
關學　中栖四郎（二）

總額七萬餘圓

憲兵隊拔ひの國防獻金

台灣憲兵隊愛行國防獻金その後の分は左の通りで之で軍事勤獻金は第二回總額七十七萬二千五百二十五圓七十七錢（十五日作）

現在に達した金二十四萬北市芳町新永商會金三百圓總督府木エ、金二千四百四二十五錢臺北州新莊郡五股庄國民學校外十八名、金四十二圓

支那茶に代つて 臺灣茶愈よ滿國へ

特産課 古澤氏の土産話

去として支那茶が滿ばしてゐた滿洲國が急に支那茶の輸入が杜絶しストック品もなくなつたので非常に困つてゐるとのことを聞き今までの臺灣茶の滿洲進出に力瘤を入れても支那茶より品質が悪いとされて思ひ通りに運ばなかつた臺灣茶業界も今回の事變を好機に滿洲に於て實地に一大宣傳をなすべく出掛けて行つたのであるが各地で展示會を開催、試飲會を開いて好評に好評を博し大好評を受けた、殊に新京に於ては呂茶業組合長が滿洲國政府の要人に對し臺灣茶の滿洲進出に關し懇請する所があつたが滿洲國政府としては滿洲國の茶業保護の爲め臺灣茶の輸入制限を實施する事に決定したので臺灣茶業界は大打撃を受けた、然し古澤氏は滿洲國の茶業は將來有望であるから臺灣茶業者は滿洲國の茶業に對し資本と技術を提供して滿洲國の茶業を開發し滿洲國の茶業を臺灣茶業者の手で經營する樣にしたら滿洲國政府も喜ぶであらうと語つてゐる

事變寫眞

呆れ返る支那紙のデマ

山東丸入港

【基隆電話】大連汽船大連航路山東丸は十六日未明基隆に入港したが去月半ば出發當時、基隆に着いた第一回の慰問袋を積んで愈々第二回の慰問袋を積んで愈々第二回の慰問袋を積んで愈々第二

家庭と婦人

「コレラ」襲來の虞あり
銃後の衞生に異變なきや
支那に流行し長驅内地にも侵入

（一）

臺北州衞生課長醫學博士　安達敬智

現下海、陸、空軍將兵の奮戰、擧國一致の銃後の護りに、更に決意の緊張を强いつつあり、と報ぜられてゐる、然も内地は勿論、長江一帶の奥地から、遠く滿蒙、北支の廣野を見つゝある、又九州大牟田市を中心として、赤痢患者の續發的に發生して、其の數實に六千に達し死亡者も亦數百を數へるやうである。

顧へつて台北州の衞生狀況を見るに「チフス」は九月に入り其の最盛期の流行となり、遂に前月を凌駕するに至り、曾て一路下降の形勢にあるのみならず、赤痢患者も亦漸次增加の傾向を示し、九月末迄に一一九名の患者を出す等、傳染病の蔓延に關し、大流行に至るやを憂慮する所である。然も此の秋にあり、防疫施設として本島を襲ひつゝあるコレラは傳染病の中でも最も恐るべきものであることは周知の通りである。この點からの防疫工作を急務なる事勿論、一般の警戒に一段の努力を要する次第し、當局の警防

國定忠次 (81)

(第十回)

長谷川伸作
岩田專太郎畫

大雨の前 (六)

A

八寸の伊八は固定、動けるやうにさへいけば、関宇屋の生命、取次いで、肝に入れた「忠次と千博徒ノ人」の額、眺のなかで育くんでる。

同宿へ伊八がひつた頃は、夜更け、千々降りの雪が綿の如く降り積つて、千手ヶ原の方へ行くにも、往来には一子供ひとり遊んでゐない。

此頃の寒さが、子供から老人まで、へ籠つたから、滅多出てゐる者は殆んどない。

伊八は、勿論、親分おひでですから」

「へえ」

「人相が変に湾つて見えるが、どうかしたか」

人相なら忠次郎の方が、倍々ほど、いつもと湾つてゐる。聞いてきた千博徒ノ人の話を、云つたが、いかゞ思いか判断がつきかねる。

「何だか云つてみろ。伊八、隠はな、お前が出て行つたからとてぐら付いてゐやしねえぜ。はあンこの間の一件で、鳥羽の岩兵衛が眺の奴に出合ひ、こて、ついたのか」

「いいえ俺の耳たぶをおやねえ、親分の耳だ」

「俺の？　云ふと」

「鳥羽の親等がさう云つてゐるんです。国定の忠次郎は、飛脚殺しで千博徒を奪つたんだなんて」

「ふうン、そんな噂をか」

「忠次郎はもうからにお召捕りになるのだなんて、飛んでもねえ鳥曲叩いてやがる」

「もういけねえ。鳥羽の伊三郎、女の腐つたやうな事をつかやがる伊八、お前様をつけてくれ気を許して、人間が馬みてえに、こツそり宣ひ通りやがつて——」

「もう言ふな。その話はよさう。それよりお前、今迄やつたことを順に話してくれ」

「へえ」

八寸の伊八は固定、動けるやうにさへいけば、取次いで、肝に入れた「忠次と千博徒ノ人」の額、眺のなかで育くんでる。

同宿へ伊八がひつた頃は、夜更け、千々降りの雪が綿の如く降り積つて、千手ヶ原の方へ行くにも、往来には一子供ひとり遊んでゐない。

此頃の寒さが、子供から老人まで、へ籠つたから、滅多出てゐる者は殆んどない。

伊八は、勿論、親分おひでですから」

「へえ」

「人相が変に湾つて見えるが、どうかしたか」

人相なら忠次郎の方が、倍々ほど、いつもと湾つてゐる。聞いてきた千博徒ノ人の話を、云つたが、いかゞ思いか判断がつきかねる。

「何だか云つてみろ。伊八、隠はな、お前が出て行つたからとてぐら付いてゐやしねえぜ。はあンこの間の一件で、鳥羽の岩兵衛が眺の奴に出合ひ、こて、ついたのか」

「いいえ俺の耳たぶをおやねえ、親分の耳だ」

「俺の？　云ふと」

「鳥羽の親等がさう云つてゐるんです。国定の忠次郎は、飛脚殺しで千博徒を奪つたんだなんて」

「ふうン、そんな噂をか」

「忠次郎はもうからにお召捕りになるのだなんて、飛んでもねえ鳥曲叩いてやがる」

「もういけねえ。鳥羽の伊三郎、女の腐つたやうな事をつかやがる伊八、お前様をつけてくれ気を許して、人間が馬みてえに、こツそり宣ひ通りやがつて——」

「もう言ふな。その話はよさう。それよりお前、今迄やつたことを順に話してくれ」

忠次郎は房間いてゐる。

「親分」

三度目を伊八がいつた。

「伊八。どうしたんだ」

顔をみたら質問を浴びかけて、と、それぢから考へてきた伊八が家の中が、いつもより陰気なので思はず云ふことが変り。

「ご用もつけねえでどうしたんです」

「お前は無いだ。親分」

「お前は無いだ。親分」

「猫つたとつて、何鳥へれ」

「生れた様ですか」

「百々村へですか」

「けッから忠次郎は猫り身だ」

「そいつはいけねえ。女房さんに相談してきます。そんな水臭いはいけねえや」

「女房が逃つて行つたよ、お前を女百々村へ」

「へえ——何だつて又、急に夫婦別れだなんて」

「急なものか、二月も三月も前からのことだ。お前はいい処だがこいつばかりは、どうにもならぬ」

忠次郎には珍らしい、重たい一口一口である。

伊八が行燈に灯を入れたので、家の中が明るくなつたが、女房が去つた後の、生々しい寂寞は、明るさと共に、むきだしになつた忠次郎は手持無沙汰に、坐つてゐる伊八の顔つきに、何かついて「伊八」

「忠次郎は房間いてゐる。

「親分」

三度目を伊八がいつた。

「伊八。どうしたんだ」

顔をみたら質問を浴びかけて、と、それぢから考へてきた伊八が家の中が、いつもより陰気なので思はず云ふことが変り。

「ご用もつけねえでどうしたんです」

「お前は無いだ。親分」

「お前は無いだ。親分」

「猫つたとつて、何鳥へれ」

「生れた様ですか」

「百々村へですか」

「けッから忠次郎は猫り身だ」

「そいつはいけねえ。女房さんに相談してきます。そんな水臭いはいけねえや」

「女房が逃つて行つたよ、お前を女百々村へ」

「へえ——何だつて又、急に夫婦別れだなんて」

「急なものか、二月も三月も前からのことだ。お前はいい処だがこいつばかりは、どうにもならぬ」

忠次郎には珍らしい、重たい一口一口である。

伊八が行燈に灯を入れたので、家の中が明るくなつたが、女房が去つた後の、生々しい寂寞は、明るさと共に、むきだしになつた忠次郎は手持無沙汰に、坐つてゐる伊八の顔つきに、何かついて「伊八」

「さうか。その話はよさう。それよりお前、今迄やつたことを順に話してくれ」

忠次郎がいいさゝか甘白で眺鳥から御殿に奇妙が通つてゐる。

「親分——」

と、伊八が云ひかけたが、口を噤んだ忠次郎の顔をみて、後がいへなくなつた。

「伊八。御殿。鳥羽の國に引かかつた。へへ」

と、自ら嘲つて忠次郎は眼を閉ぢた。

「國にかかつたつて親分。まだ國にかかりやしねえんぜせう」

「さうか。その話はよさう。それよりお前、今迄やつたことを順に話してくれ」

忠次郎がいいさゝか甘白で眺鳥から御殿に奇妙が通つてゐる。

「親分——」

と、伊八が云ひかけたが、口を噤んだ忠次郎の顔をみて、後がいへなくなつた。

「伊八。御殿。鳥羽の國に引かかつた。へへ」

と、自ら嘲つて忠次郎は眼を閉ぢた。

「國にかかつたつて親分。まだ國にかかりやしねえんぜせう」

活動寫眞は 何故動いて見えるか 微妙極まるこの原理

印像

◇…活動寫眞は何故動いて見えるのか——わかり切つたことのやうですが、改まつて、かうたづねると、大抵の人が、さて首をひねるでせう。そこで、眼を、更に内外して見ると、実に微妙な時間が計算されることになります。

即ち寫眞がレンズの前に扉止してゐる時間は一秒の二十四分の一、そのまた四分の三で、殘りの四分の一はレンズをまへぐり線が現はれる……これを繪変して行くわけであります

交替

◇…そこで、今迄やつたことを順に話してくれ」

「へえ」

「人相が変に湾つて見えるが、どうかしたか」

人相なら忠次郎の方が、倍々ほど、いつもと湾つてゐる。聞いてきた千博徒ノ人の話を、云つたが、いかゞ思いか判断がつきかねる。

「何だか云つてみろ。伊八、隠はな、お前が出て行つたからとてぐら付いてゐやしねえぜ。はあンこの間の一件で、鳥羽の岩兵衛が眺の奴に出合ひ、こて、ついたのか」

「いいえ俺の耳たぶをおやねえ、親分の耳だ」

「俺の？　云ふと」

「鳥羽の親等がさう云つてゐるんです。国定の忠次郎は、飛脚殺しで千博徒を奪つたんだなんて」

「ふうン、そんな噂をか」

「忠次郎はもうからにお召捕りになるのだなんて、飛んでもねえ鳥曲叩いてやがる」

どの位の時間を要して、次の寫眞と交替するかといふことでありますす、これを実際に計つて見ると、一コマの寫眞の扉止及び交替する時間は合せて一秒の二十六分の一でありますが、このごく短かい時間を、更に内外して見ると、実に微妙な時間が計算されることになります。即ち寫眞がレンズの前に扉止してゐる時間は一秒の十六分の一、そのまた四分の三で、殘りの四分の一はレンズをまへぐり線が現はれる……これを繪変して行くわけであります

交替

◇…そこで、今迄やつたことを順に話してくれ」

「へえ」

「人相が変に湾つて見えるが、どうかしたか」

人相なら忠次郎の方が、倍々ほど、いつもと湾つてゐる。聞いてきた千博徒ノ人の話を、云つたが、いかゞ思いか判断がつきかねる。

「何だか云つてみろ。伊八、隠はな、お前が出て行つたからとてぐら付いてゐやしねえぜ。はあンこの間の一件で、鳥羽の岩兵衛が眺の奴に出合ひ、こて、ついたのか」

「いいえ俺の耳たぶをおやねえ、親分の耳だ」

「俺の？　云ふと」

「鳥羽の親等がさう云つてゐるんです。国定の忠次郎は、飛脚殺しで千博徒を奪つたんだなんて」

「ふうン、そんな噂をか」

「忠次郎はもうからにお召捕りになるのだなんて、飛んでもねえ鳥曲叩いてやがる」

◇…そこで、言葉を換へていへば一秒の二十六分の一といふ短い時間だけ現はれた寫眞がレンズの前で扉止して、そこで、いつたんレンズの前がシヤッターに依つて閉ざされてゐる間、即ち一秒の六十四分の一の間に、次の寫眞と交替するのであります。そこで、もし、一秒十六コマの映畫撮影を変更して、もつと細い速度とし、その中分、一秒八コマといふならば、どうなるでせうか、前に現はれた寫眞が消えて、しばらく時間が経つてから……といふのは眼に殘つてゐる印象が消えてしまつてから、次の寫眞が現はれて扉止するために、連続した運動と見えず、バラバラの連続寫眞となるために、非常に不自然な動作を現はすことになるのであります。つまり、例へていへば、腕の上げ下げの如きも、一コマ一コマに段がついて映ることになります

撮影

◇…これまで述べたのは、映畫の場合をいふのですが、これが、撮影の場合には、どうなるか、様式に依つて多少の相違はあるとしても、原則は一秒の十六分の一の更に四分の一だけ、レンズのシヤッターが開いてゐる時間は

$\frac{1}{16}\times\frac{1}{4}=\frac{1}{64}$

即ち、一秒の六十四分の一秒といふ短かになります。従つて、一秒の十六分の一の四分の三といふ時間だけレンズのシヤッターが開らてゐることになります

x

◇…以上が大体活動寫眞に於ける原理となつてゐるのであります。たゞ、一コマの寫眞の大きさは、三寸角乃至四寸角の寫眞を一秒に六コマ乃至八コマ映すのですから、フヰルムを巻き込まれた為めに、その間に挿げられたスパーフオーレーションと呼んでゐます

續手相學入門 (一)

桑原英子

感情線について

感情線は主に感情的感受性や、直観的精神方面を司るものとされてゐます。上部に位置するほど高等な精神方面を示し、下部に位置するほど本能的感情を示すものであります。智能線と同様、この線の形状は先天的の感情的精神方面を示し、走つてゐる方向、即ち先端が何れの方面に向つてゐるかと云ふ点は、その人の愛情、知何を知ると共に、その愛情が恒常性ありや否やを判ることの出来る重要性を持つてゐます

また生理的には心臓及び眼などに関係があり、形状が粗悪で、破損や欠如などのある場合には、それら器官の部位に故障のある事を示し、また変情的精神方面にも欠陥あるものとされてゐます。東洋の運命学では太陽丘の部位を離とし、また太陽とし、目に属つたものであります。この丘の下部に位置する感情線に島のある場合、西洋でも目の悪い事を示すとされ、東西共に運命学上相通ずる面白味があるわけであります。

(1) 本長丘の感情線から説して

◇…感情線の原理はここにあるわけで、最初に一枚の寫眞をスクリーンに映し、この印像を眼に残しておいて、次の寫眞に移つて行くところに微妙な眼の錯覚の利用があるわけであります。従つて、寫眞の交替が極度に迅速であつて印像が眼に残らない中に、次の寫眞が現はれ、これが連続したために、寫眞は成立せず、また印像が別の寫眞と交つてしまふわけです。そこで、前の方面から観察すれば一つの寫眞が映つて、それが消えてある間に次の寫眞が現はれるし、現在これをはつきり見てゐる、それがまだ消えて行く……印像が眼に殘る……同じことを何回も繰返して行くことになるのであります

前の印像が眼に殘つたから、次の寫眞と交替させる所に、時間的に眼る面倒の計算と経験とが必要とされるわけであります

靜止

◇…一秒のフヰルムは十六コマその寫眞次々が連続に写る時間は一秒として説明します。処で、問題によるのはこの一コマの寫眞が、どの位の時間レンズの前で静止し

錯覚

◇…活動寫眞の原理はここにあるわけで、最初に一枚の寫眞をスクリーンに映し、この印像を眼に残しておいて、次の寫眞に移つて行くところに微妙な眼の錯覚の利用があるわけであります。従つて、寫眞の交替が極度に迅速であつて印像が眼に殘らない中に、次の寫眞が現はれ、これが連続したために、寫眞は成立せず、また印像が別の寫眞と交つてしまふわけです。そこで、前の方面から観察すれば一つの寫眞が映つて、それが消えてある間に次の寫眞が現はれるし、現在これをはつきり見てゐる、それがまだ消えて行く……印像が眼に殘る……同じことを何回も繰返して行くことになるのであります

前の印像が眼に殘つたから、次の寫眞と交替させる所に、時間的に眼る面倒の計算と経験とが必要とされるわけであります

靜止

◇…一秒のフヰルムは十六コマその寫眞次々が連続に写る時間は一秒として説明します。処で、問題によるのはこの一コマの寫眞が、どの位の時間レンズの前で静止し

錯覚

◇…活動寫眞の原理はここにあるわけで、最初に一枚の寫眞をスクリーンに映し、この印像を眼に残しておいて、次の寫眞に移つて行くところに微妙な眼の錯覚の利用があるわけであります。従つて、寫眞の交替が極度に迅速であつて印像が眼に殘らない中に、次の寫眞が現はれ、これが連続したために、寫眞は成立せず、また印像が別の寫眞と交つてしまふわけです。そこで、前の方面から観察すれば一つの寫眞が映つて、それが消えてある間に次の寫眞が現はれるし、現在これをはつきり見てゐる、それがまだ消えて行く……印像が眼に殘る……同じことを何回も繰返して行くことになるのであります

前の印像が眼に殘つたから、次の寫眞と交替させる所に、時間的に眼る面倒の計算と経験とが必要とされるわけであります

静止

◇…一秒のフヰルムは十六コマその寫眞次々が連続に写る時間は一秒として説明します。処で、問題によるのはこの一コマの寫眞が、どの位の時間レンズの前で静止し

速度

◇…そこで、言葉を換へていへば一秒の二十六分の一といふ短い時間だけ現はれた寫眞がレンズの前で静止して、そこで、いつたんレンズの前がシヤッターに依つて閉ざされてゐる間、即ち一秒の六十四分の一の更に四分の三といふ時間だけ、次の寫眞と交替するわけです。

$\frac{1}{16}\times\frac{3}{4}=\frac{3}{64}$

で、おそく、一秒の二十一分の一に殘ります。寫眞が消えて交替する時間は一秒の十六分の一の更に四分の一ですから、これは

$\frac{1}{16}\times\frac{1}{4}=\frac{1}{64}$

となります

速度

◇…そこで、言葉を換へていへば一秒の二十六分の一といふ短い時間だけ現はれた寫眞がレンズの前で静止して、そこで、いつたんレンズの前がシヤッターに依つて閉ざされてゐる間、即ち一秒の六十四分の一の更に四分の三といふ時間だけ、次の寫眞と交替するわけです。

$\frac{1}{16}\times\frac{3}{4}=\frac{3}{64}$

で、おそく、一秒の二十一分の一に殘ります。寫眞が消えて交替する時間は一秒の十六分の一の更に四分の一ですから、これは

$\frac{1}{16}\times\frac{1}{4}=\frac{1}{64}$

となります

感情線の種々相

◇…感情線は、人間の感情的感受性や、直観的精神方面を司るものとされてゐます。上部に位置するほど高等な精神方面を示し、下部に位置するほど本能的感情を示すものであります。智能線と同様、この線の形状は先天的の感情的精神方面を示し、走つてゐる方向、即ち先端が何れの方面に向つてゐるかと云ふ点は、その人の愛情、知何を知ると共に、その愛情が恒常性ありや否やを判ることの出来る重要性を持つてゐます

また生理的には心臓及び眼などに関係があり、形状が粗悪で、破損や欠如などのある場合には、それら器官の部位に故障のある事を示し、また感情的精神方面にも欠陥あるものとされてゐます。東洋の運命学では太陽丘の部位を離とし、また太陽とし、目に属つたものであります。この丘の下部に位置する感情線に島のある場合、西洋でも目の悪い事を示すとされ、東西共に運命学上相通ずる面白味があるわけであります。

(1) 本長丘の感情線から説して

◇…感情線の原理はここにあるわけで、最初に一枚の寫眞をスクリーンに映し、この印像を眼に残しておいて、次の寫眞に移つて行くところに微妙な眼の錯覚の利用があるわけであります。従つて、寫眞の交替が極度に迅速であつて印像が眼に殘らない中に、次の寫眞が現はれ、これが連続したために、寫眞は成立せず、また印像が別の寫眞と交つてしまふわけです。そこで、前の方面から観察すれば一つの寫眞が映つて、それが消えてある間に次の寫眞が現はれるし、現在これをはつきり見てゐる、それがまだ消えて行く……印像が眼に殘る……同じことを何回も繰返して行くことになるのであります

前の印像が眼に殘つたから、次の寫眞と交替させる所に、時間的に眼る面倒の計算と経験とが必要とされるわけであります

静止

◇…一秒のフヰルムは十六コマその寫眞次々が連続に写る時間は一秒として説明します。処で、問題によるのはこの一コマの寫眞が、どの位の時間レンズの前で静止し

今週の映画

新興大泉の 淨婚 記

十六日から芳乃館上映

寫眞に連載された細田民樹の原作を松本重吉が脚色監督したもの。物語は比美美子(山路ふみ子)と眞砂(千田是也)とは幼い時からの許嫁の間柄であつたが、比美美の學入希望で都会と眞砂とが別れ別れになつてゐる間に、比美美の父が破産して自殺するし、眞砂の父が病死するし、比美美は眞砂と結婚しようと努力したが、比美美の母(三戸部スエ)は眞砂の家が貧乏なのを嫌つて、比美美を自分の姪と結婚させようとする。比美美は眞砂と相談して、二人の結婚を許して貰はうと、眞砂の家を訪ねるが、眞砂の母は比美美の母に対して冷淡な態度をとるので、比美美は眞砂と別れて、比美美の母の意に従つて、比美美の父の友人の子息である、松本四三雄(高田稔)と結婚する。

和玉枝(一幕のいさゝかが絡んでゐる、出演者はこのほかに菅井一郎、浦辺粂子の其夫人、大井正夫の医師、千田是也の田舎浦辺粂子の姑、山路ふみ子の比美美の母、三戸部スエの眞砂の母、高田稔の松本四三雄、菅井一郎の共演になる。併映は大友柳太郎、松本泰輔の共演になる「水雷艇長」(九映画)の巻である。(番組は「洋服屋」の項参照)

今週の映画

メガホン

▲場所は十二(27812)の催眠場が送入されてゐます。会場の方は何話をかけて下さい(昭和一二九九八)▲場所は催眠術の時代です。公衆会場料で催眠術をかくらすのはどうかと思ふ(大生)▲一内地国語講習所の先生と同く(宮田町)も、一秒の六十四分の一秒といふ短かになります。従つて、一秒の十六分の一の四分の三といふ時間だけレンズのシヤッターが開らてゐることになります

x

◇…以上が大体活動寫眞に於ける原理となつてゐるのであります。たゞ、一コマの寫眞の大きさは、三寸角乃至四寸角の寫眞を一秒に六コマ乃至八コマ映すのですから、フヰルムを巻き込まれた為めに、その間に挿げられたスパーフオーレーションと呼んでゐます

撮影

◇…以上が大体活動寫眞に於ける原理となつてゐるのであります。たゞ、一コマの寫眞の大きさは、三寸角乃至四寸角の寫眞を一秒に六コマ乃至八コマ映すのですから、フヰルムを巻き込まれた為めに、その間に挿げられたスパーフオーレーションと呼んでゐます

商況 (十六日)

臺灣正米市場前場

◇二期乾燥米
前場
買 申 限 十一月限 二四・〇〇
不 申 二四・〇〇
売 申 限 二四・〇〇
◇二期乾燥米

臺灣日日新報
（第二版）（原稿記錄）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）
本日夕刊卅二頁
臺北市本町　人行電報掛編
臺北市榮町三丁目廿番地
社報新日日新聞　臺北市榮町三丁目廿番地
電話番號　代表局八〇一番　編輯局五八〇二番　營業局五八〇三番
定價　本社一部六錢　一ヶ月前金三圓六十錢　一ヶ月後金三圓八十錢　一ヶ月內金支拂料金大洋
也　一ヶ月後金四圓　一ヶ年前金四十五圓　一ヶ年內金支拂料金大洋四十二圓
廣告料　特別一行十五字　一回金壹圓　同追加一行　同壹圓五拾錢
臺北二〇五九　臺中一〇二五　臺南一〇二五　高雄一〇二五　花蓮港一〇二五　澎湖一〇二五

社說

企畫院と我が官房調査課
專任課長配置と其の重要性

戰時統制及び物動計畫の中樞機關として新設さるる企畫院に於ては既に其の官制と職務令の案が樞密院會議に於て原案通り通過し更に來る廿日の閣議に於ても異議なく可決さるる豫定に在るので政府は愈々廿日附を以て企畫院を發足せしむる事となつた。之れより先き本年廿月內閣に企畫廳が設けられ

一

非常時財政の爲めの官房機構を整理することになつたがそれが支那事變後も續續の官房機構が閣內中心に計畫されねばならなくなつたので、其の仕事の範圍も自然に擴大し同じ內閣官房の書記官の仕事と殆ど變化し、屢々社會に矛盾を見るやうな場合さへ生ずるに至つた。

二

此の實情鑑みては昭和二年改正以來一貫の精神の時に調整すべき企畫實施に關しての備へを缺て來たのであるが、殊に支那事變後は人的及び物的兩方面に於ける重點の移動を調整して其の官用を全うし國策の機動性を強化して其の官房の機能を強め國策に協力

する所以の官房機構の整備擴充を圖る爲めに內閣官房の改正が行はれ內閣官房に內閣企畫部を設置し內閣總理大臣の統帥の下に勅任の次長二名、勅任の部長六名以下必要な職員を置くことになつた。內閣官房の企畫部は

南洋から原鑛を輸入
臺灣に輕金屬精錬會社
ニツケル、亞鉛等を電氣精錬
赤司氏らが設立計畫中

【東京十六日發本社支局特電】赤司初太郎氏は、先頃來ルアー薬會社設立に努力中であるが、更に臺灣に於てニツケル、亞鉛等の輕金屬精錬會社を設立すべく計畫中である、

右原料鑛石は南洋その他國外より臺灣に輸入し電力により精錬するものでOOとして必要な諸條件を具備するところが無い為め、その點認可を得るは勿論容易であらうと見られて居り、同會社並に同會社と共に資本金は各々一千万円である

對滿、支、南洋と臺灣の一
九月中貿易
支那は激減、滿洲南洋は增加

九月中の本島對滿支南洋貿易は支那動亂の影響により對支關係は依然として振はざるも對滿關係に於ては輸出入共に增加を見たが總額合計に於ては輸出九千万圓、輸入一千万圓、合計一千万圓の減少を示した（單位千圓）

輸出	對滿貿易	八、一三八	七、六五六	四八二
輸入	對滿貿易	五、一四一	五、一四一	一、一三三
輸出	對支貿易	三、一三八	三、一三八	一、一三三
輸入	對支貿易	五、一四一	五、一四一	一、一三三
輸出	合計	三、一三八	三、一三八	一、一三三
輸入	合計	五、一四一	五、一四一	一、一三三
輸出	對滿貿易	三、一三八	三、一三八	一、一三三
輸入	對滿貿易	五、一四一	五、一四一	一、一三三
輸出	對支貿易	三、一三八	三、一三八	一、一三三
輸入	對支貿易	五、一四一	五、一四一	一、一三三
輸出	合計	三、一三八	三、一三八	一、一三三
輸入	合計	五、一四一	五、一四一	一、一三三

輸出	對滿貿易	三、一三八	三、一三八	一、一三三
輸入	對滿貿易	五、一四一	五、一四一	一、一三三
輸出	對支貿易	三、一三八	三、一三八	一、一三三
輸入	對支貿易	五、一四一	五、一四一	一、一三三
輸出	合計	三、一三八	三、一三八	一、一三三
輸入	合計	五、一四一	五、一四一	一、一三三
輸出	對滿貿易	三、一三八	三、一三八	一、一三三
輸入	對滿貿易	五、一四一	五、一四一	一、一三三
輸出	對支貿易	三、一三八	三、一三八	一、一三三
輸入	對支貿易	五、一四一	五、一四一	一、一三三
輸出	合計	三、一三八	三、一三八	一、一三三
輸入	合計	五、一四一	五、一四一	一、一三三

古代生活の謎を近代風俗で解く

古代埃及の生活狀態と十五世紀伊太利風習は酷似

ボストン美術館學藝部員、エジプト部のダンハム氏は、約五千年以前のエジプト人の「國による最初記錄の國」を、第五千朝の墓の壁畫と十九世紀に於けるイタリーの初期印刷本を比較として、見紛た國に居ることつある。

エジプトの生活狀態を知るに、何故五世紀のイタリー風習が參考になるかといへば、その間系と同時の「國」を見出し得ない點、兩者類似してゐるからである。

記錄的な地震と被害

地震は從來知られた地震の中で、古代人と雖も、地震の經過最も顯著に觀ては、それ相當の知識と關係を有してゐたらうが、ほんとに地震學的に觀察されたのは、一七五五年リスボンを中心に起つた地震が最初、最近カンゾー・ニュー紙は世界の地震帶と地震的な地震を調査に依つて色分けにし興味ある關係を發表してゐるが、それによると世界有數の地震の年代を、人命の被害は次の通りである。

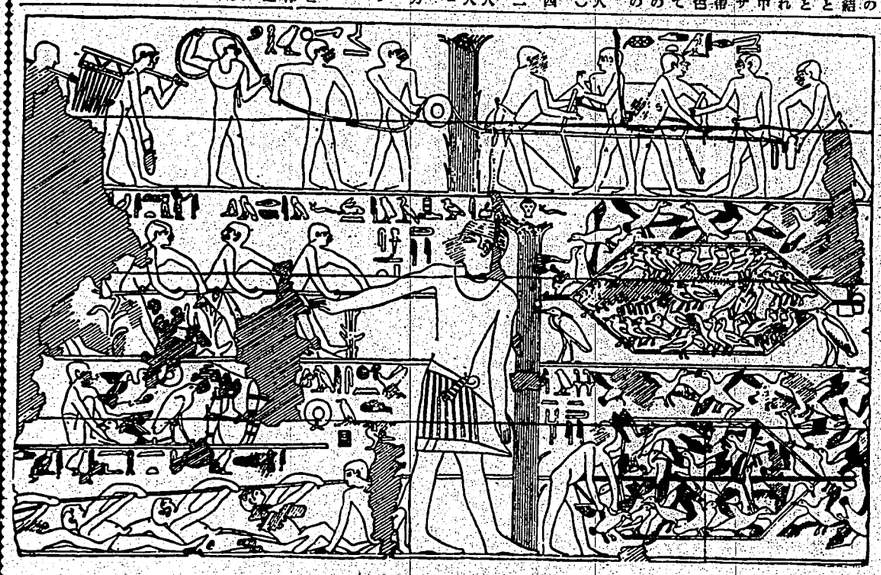
リスボン　四万人
一七五五年　メシナ(イタリー)十万人
一七九七年　キント(南米)四万人
一八二二年　アレッポ　二万二千人
一八六一年　ペルー　二万五千人
一九〇五年　北部印度　二万人
一九〇八年　サンフランシスコ　四百五十人
一九一八年　シシリー島　九万六千人
一九二三年　アヴェッノ(イタリー)二万人
一九一〇年　甘肅省　十万人
一九二三年　東京　二十万人

尚は地震記と最も關係に關係を觀じたみのは一九〇五年の北部印度の地震で約百五十万餘四方の邊圖に及んだ

と雖も、人命を使用する場合といふ本能に身を委ねてゐる人々によつて、賜が引かれる關子といふ、殆どその數といつてよい。否、むしろ二十世紀の數よりもそれよりも四十五百年も以前のエジプトのそれの方が、ある點に於いては勝れてゐたらしくさへあるのである。

×

同物館の矢張りエジプト部に



EGYPTIAN BIRD-TRAPPING SCENE

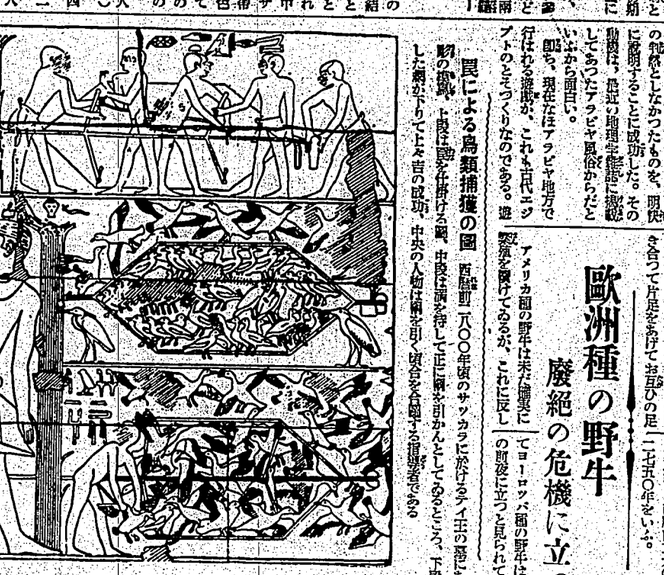
歐洲種の野牛

廢絶の危機に立つ

アメリカ組の野牛は未だ繁殖に努めてゐるが、これに反し歐洲種の野牛は今や廢絶の危機に立つと見られてゐる。

ヨーロッパ組の野牛は今や廢絶の危機に立つと見られてゐる。

アラビヤの子供が好んでする遊びの一組の寫眞は、二人の子供が向き合つて片足を挙げてお互ひの足一二本宛の手を組み合せて、



この金屬製作品は多くの俘虜を使役して例らいてゐる埃及技師工を表つたもの

と同時の目に遭つてゐるか、また一人の俘虜人が同じに入らない即にダオメエ」といふ意味にて有力な帝國があり、ここには大變多くの俘虜を使つてゐるといふことがある。

×　×

最近の研究に依ればこの文化の搖籃は、ダオメエといふ國は古く

そして、何時の頃か記憶遠い昔に於て、すでにダオメエ國人は歐洲各國で金屬を用ひて、鐵を鑄造の人像を作ることに妙を得て居た。しかし

黒人帝國が生んだ金屬應用の珍技法

アフリカに謎の藝術

現在アフリカは、ヨーロッパ諸國民が入り込み、殆ど征服された

から金屬應用の技術が特に進んでゐる結果であるといはれてゐる。

北極に眞水の河が流れてゐる

ソ聯探檢隊のニュース

メバーニン氏等探檢の最近ダス通信に發せたニュースがあるから掲載しよう。

氏等探檢一行がテントを張つてゐるすぐ前に眞水の河が流れてゐることを發見して、一同相當驚いた

×

最近の研究に依ればこの文化の搖籃は、ダオメエといふ國は古く

二化螟蟲の天敵「寄生蜂」

農家の惱みは救はれる

農學博士　鏑木外岐雄

二化螟蟲は二化螟蟲、大唐蟲、浮塵子と共に稻作の大害蟲として音に聞えた害蟲である。故に稻作に關する研究は古くから數多くなつて居るものである。そこに屋上屋を架すの感はあるが、その研究の結果は一化螟蟲の研究に比べて餘り多くないのである。その發生の狀態は一化螟蟲の場合と殆ど同じであつて、發生區域の擴大、被害の增加、防除法の困難等も一化螟蟲と同樣である。

この蟲の天敵に關する研究は昭和二年頃から始められたのであつて、今日迄に發見された寄生蜂は十八種程に達してゐる。

×

寄生蜂の種類は、卵に寄生するもの、幼蟲に寄生するもの、蛹に寄生するもの、成蟲に寄生するもの等種々あつて、各種の寄生蜂は夫々その寄生する發育時期に於て、その寄生蜂として有力なものは

臨時增刊

これが戰爭だ!!

裏の戰爭

特ダネ實話實錄集

長城山嶽戰の苦闘を語る部隊長陣中座談會

聯軍備と作戰を衝く

小說家が見て來た戰爭を語る座談會

出席者　山本實彥　林房雄　尾崎士郎　榊山潤

赤軍の矛盾作戰を衝く

ソ聯が誇る赤色空中兵團の全貌

國防飛行家協會の組織を暴く

素人にもよく分る近代戰の戰略戰術

國民よ！この高等戰術を學び取れ

▲戰鬪群戰術と狙擊兵　▲カモフラーヂュの戰術
△機械化騎兵團の威力　△高射砲は當らぬか
▲長距離砲と精密測定器の發達　▲毒ガス戰は何うしてやるか
△トーチカ爆破と近代坑道戰術　△攻擊作戰にはどんな用意が要るか
▲敵前渡河と架橋戰術　▲動員計畫は何うして編まれるか
△兵站線はどうなつてゐるか　△包圍殲滅と中央突破の兩戰術

無名戰士語る

▲死の任務報告　▲激戰を前の戰死
▲挺身電線修理　▲十人の決死隊
▲敵彈下の機關車修理

大空の比翼塚!!
佐藤大尉未亡人
殉死の眞相

外人の見た日本軍

第一特輯

上海戰線外交官記者座談會

戰爭は日常生活にどう響くか
戰場外科と衞生部員の活動

腕利きの外人ジアーナリストの目に映じた日本軍の活躍や如何!!戰爭の見透しは

日支兩軍の戰略を檢討す

日本はどこまで戰ふか

W・H・レナー

ニッポン軍とヤマトダマシヒ

J・アダムソン

羅店鎭戰線

和知部隊長

支那の戰術家

現代戰術の巨星群

雨宮巽

列強・近代戰術の巨星群

村上德治

空龍表下の南京人多彩なし

殘滅戰の雄・ナポレオンの戰術論

海上遮斷と渡洋爆擊法

列強得意の戰法

國際法は戰時にどう位置づけられるか

聯軍備と作戰を衝く

小說家が見て來た戰爭を語る座談會

出席者　山本實彥　林房雄　尾崎士郎　榊山潤

赤軍の矛盾作戰を衝く

ソ聯が誇る赤色空中兵團の全貌

國防飛行家協會の組織を暴く

長城山嶽戰の苦闘を語る部隊長陣中座談會

我が案哈爾濱西作戰部隊を大同に訪ねて得た歷史的な大座談會

第四特輯

抗日據點トーチカ・配陣型
機械化兵團の裝備

第三特輯

空中從軍行
漫談家の北支從軍記　西村榮天

事變豆字引
軍事知識圖解說

▽支那兵の生活を裏から覗く
▽日本赤十字看護婦物語
▽青島總督ワルデック敗戰手記
▽スペイン戰線　女間諜戀の十字砲火
▽世界を股の女スパイ列傳…北村小松
▽大戰秘史　マルヌ敗退の因、參謀ヘンチ中佐
▽バルチック艦隊來航祕錄…ポリトウスキー
▽ヴエルダンの塹壕に於ける一佛兵士の手記

第二特輯

日記

十五歲の女學生の篤志看護婦

第一特輯

上海野戰病院

定價五十錢

堂々たる內容